

## 経済制裁は市場と司法を使った戦争



### アメリカの制裁外交

杉田弘毅・著  
岩波新書 / 840円+税

「血の流れる戦争」を嫌ったアメリカは、基軸通貨ドルと金融システムを活かした制裁に頼る。金融市場は今や、アメリカの法律と司法を駆使しての、テロ、北朝鮮、イラン、そして中国との見えない戦争のフロントラインだ。しかし、このような制裁に果たして効果はあるのか。そして、制裁の前提であるドルの覇権はいつまで続くのか。本書は金融制裁の実態を、司法の観点から描き出し、問題点を浮き彫りにする。

### 技術覇権

米中激突の深層  
宮本雄二・伊集院敦ほか・編著  
日本経済新聞出版社 / 2500円+税



## 技術こそが焦点 米中新冷戦の構図

「一帯一路」を掲げ動き出した中国と、覇権への挑戦と見て猜疑心を深めるアメリカ。かつての日米経済摩擦を彷彿させるこの構図は、果たして「トウキョディエスの罫」となるのか。今やサイバー空間にまで及び攻防戦を、その歴史を紐解きながら、両国の国内事情や経済の依存関係までも視野に入れて多角的に分析した良書。米中覇権争いの影響を免れない日本は、どう動くべきか、思慮を巡らせる道しるべとなるだろう。



## 冷戦後の 平和と繁栄は 「蜃気楼」だったのか

### 冷戦後の東アジア秩序

秩序形成をめぐる各国の構想  
佐橋亮・編  
勁草書房 / 4200円+税

冷戦が終わった時、豊かで平和な時代の到来に期待が高まった。だが現在、東アジアの行方は樂觀視できる状況にはない。中国の台頭、北朝鮮の核ミサイル開発、さらには新型コロナ……将来への不安をかき立てる要素は多い。そこで、冷戦後の主要国の秩序認識・構想とその帰結を検証することが、東アジアの将来を見通す鍵となる。米中を包摂する国際秩序の形成は、日本の肩にかかっている。



**資源地政学**  
 グローバル・エネルギー競争と  
 戦略的パートナーシップ  
 稲垣文昭／玉井良尚／宮脇昇・編  
 法律文化社／2700円＋税

## ミサイルも、人の思考も 地政学のフアクターに

資源を背景にした紛争や国際関係は旧来の地政学的な枠組みのみならず、海峡やパイプラインなどサプライチェーン経由地にも大きな影響を与えている。本書は原油価格の大幅下落、ロシアによるパイプライン経由国への支配なども地政学の要素として分析し、「新しい資源地政学」を提唱。北朝鮮のミサイル、シエール革命とアメリカ・ファーストといった技術やアイデアもまた地政学の要素となる、という刺激的な考察もある。

**政治主体としての移民/難民**  
 人の移動が織り成す社会とシティズンシップ  
 錦田愛子・編  
 明石書店／4200円＋税



移民／難民を多く受け入れてきた国では「多文化主義の限界」が露呈しての排外的な運動が見られる。そもそも国民と移民／難民は、境界線が引かれた二項対立的なものなのか。本書は、移民／難民という「周辺者」を「今そこにいる人々」として捉え、彼らを受け止め、考え、共に取り組む姿勢の重要性を指摘し、複合的な「シティズンシップ」を軸に、各地域の事例や法的・理論的考察など学際的に論じる。

## ポスト多文化主義の ためのスタディ

世界中にフエイクが蔓延している。とはいえ嘘は、政治の道具として効力を持ってきた歴史がある。本書は、生真面目といえる日本社会の起源から説き起こし、時に大衆を欺き、時に野党存続の道具として「嘘」が横行する「不真面目」な政治文化が出現した過程を、近世から近現代に至る射程で大胆に描く。驚きの切り口から政治史を読み解く本書は、もしかししたら世界が抱える問題への効用を見出す「未来記」になるかも知れない。

## 「嘘の効用」 日本政治史で紐解く

**〈嘘〉の政治史**  
 生真面目な社会の不真面目な政治  
 五百旗頭薫・著  
 中公選書／1500円＋税

